

# PERCUSSION

パーカッション

窪田健志 くぼた・たけし



◆出身 長野県上田高校、東京芸術大学  
◆所属 名古屋フィルハーモニー交響楽団  
◆趣味 映画鑑賞、写真撮影、タップダンス  
◆血液型 O型  
◆星座 みずがめ座  
◆読者にひとこと 今日がダメでも、明日がある！  
◆手紙の送り先 kubota\_perc@yahoo.co.jp

## 調整(チューニング)は大事～大太鼓を例に

先月号の「指を使った発音方法」、続けている？ うまくできるようになると、ほとんどの楽器で響きを止めずに鳴らすことができます(マリンパの低音など、きれいに響きまますよ)。ぜひ継続してほしいです。

### ■大太鼓は「土台」で「支える役目」

今月は太鼓を中心に進めます。英語では「Bass Drum」、Bassは「基礎」「土台」という意味ですが、何の土台？ そう、合奏の土台となるような音を出したいですね。

音の組み合わせ(ハーモニー)を組体操のピラミッド(やったことあるよね?)にたとえるなら、大太鼓はチューバやコントラバス、ティンパニなどと一緒に、一番下でみんなを支える役だと思えます。「いっちゃん、した!」、やったことない? でも、想像してみてください。レストランにコックさんやウェーター、支配人がいて、学校にも校長先生、国語の先生、保険室の先生 etc. という分担があるように、楽器にもそれぞれ役割というものがある、タンバリンやトライアングルには、一番下の役はきびしいです。

今、自分の楽器はどんな役割なのか、そしてどんな音が必要で、どんな音を出したいのか? 僕も常に試行錯誤しています。

大太鼓、どんな音を出したいですか? 火花が打ちあがる瞬間の音? 砂袋が落ちた音? いろんなイメージを持ってそうですが、かん高い音ではないはず。手で拍手をしてみてください、そのとき、当たる(=離れる)スピードを変えるだけで、音の高さが変わると思えます。演奏にも応用しよう!

### ■こわがらずに調整しよう

打楽器は、調整(チューニング)が自分で「できる楽器」と「できない(やりにくい)楽器」に分かれます。できるのは小太鼓、ティンパニ、そして、大太鼓など。じゃあトライアングルや、シンバルは? この場合、マレットの種類や、打つ位置を調整したり、なに

より君の体を調整することがいっそう大事になります。でも、調整できる楽器は、まずは楽器そのものを通常(ニュートラル)の状態にしたいです。

大太鼓は、まず表のヘッドからゆるめてみましょう。大丈夫、簡単には壊れません。こわがらずに調整しよう! ボルトは1か所だけをたくさんゆるめず、 $\frac{1}{4}$ 回転ゆるめたら、対角線のボルトを $\frac{1}{4}$ 回転ゆるめ、また隣も同じようにと、順番に少しずつゆるめます。まさかボルトがなくなっている場所はないよね? ゆがみなどもチェックします。

すべてのボルトに何の力もかかかっていない状態になるまでゆるめます(はずしきらないように注意)が、ホコリも一緒に取っちゃおう。さて、このときの皮の状態はどうなっていますか? 張っていたときには見えなかった凸凹がいっぱい!? あまりにもひどい状態なら、ヘッドを交換しましょう。

ゆるめきいたら、今度はすべての場所が同じようにひっかかるまで締めよう。力を入れて締めるのではなく、あくまでひっかかるまで。それができたら、今度は $\frac{1}{4}$ 回転ずつ対角線ごとに締めていきます。ひと回りしたら、張ったところを太鼓に教えてあげるかのごとく、心臓マッサージのように素早く両手で押してから、最後に中心を押そう(【写真1】)。これで締めた力が皮にまで行き届きます。

何度か繰り返していくうちに、マレットで「ふち」を打つと、音程感(またはそのようなもの)が出てきます。場所によって音程がバラバラだったり、皮がゆがんで見えるときは、早い段階で調整しますが、もし1か所だけ音が低い場合は、対角線の逆側も一緒に締めることを勧めます。全体を締める作業を3~4回やったら一度ストップして、今度は裏の皮もゆるめるところからやってみましょう。

両側できた? では改めて、表の皮のまん

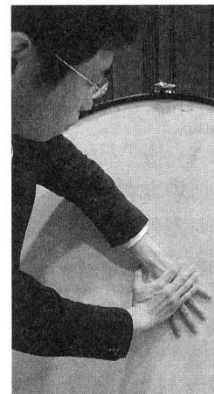
中(ドまん中です)を、やさしく打ってみてください。可能なら、打ちながら裏の皮の状態も見てください。うまくできていれば、裏の皮に響き(余韻)が目に見えるほど振動しているはずですよ。

ここからは楽器のサイズや状態で様々なので、「いつでも正解」という調整はありません。「出したい音」をイメージして、打つ位置なども探してみましょう。ちなみに僕は、普通に演奏するときは中心をねらい(音程感をなくすため)、ロールのときは少しはずして演奏します。

最近は胴の深いものが増えています。ヘッドもプラスチックだけでなく、本皮を使用しているところもたくさん。どちらでも問題ないですが、大事なものは、打つ面(表)と、打っていないのに振動する面(裏)を両方ちゃんと響かせることです。表だけを軽くなるようにせず、裏まで届くように、かつ、打つスピードも考えて。そうそう、当てる向きにも注意! どの楽器にも言えることだけど、マレットは打面と平行の角度で当てること(【写真2】)を心がけよう。

今月の調整の方法は小太鼓、トムトムなどにも応用できますが、この2つは楽器を床に置いてやることをお勧めします。理由は、スティックで打ったときに音程感がわかりやすいから。耳を使っていいチューニングを!

【写真1】



【写真2】

